

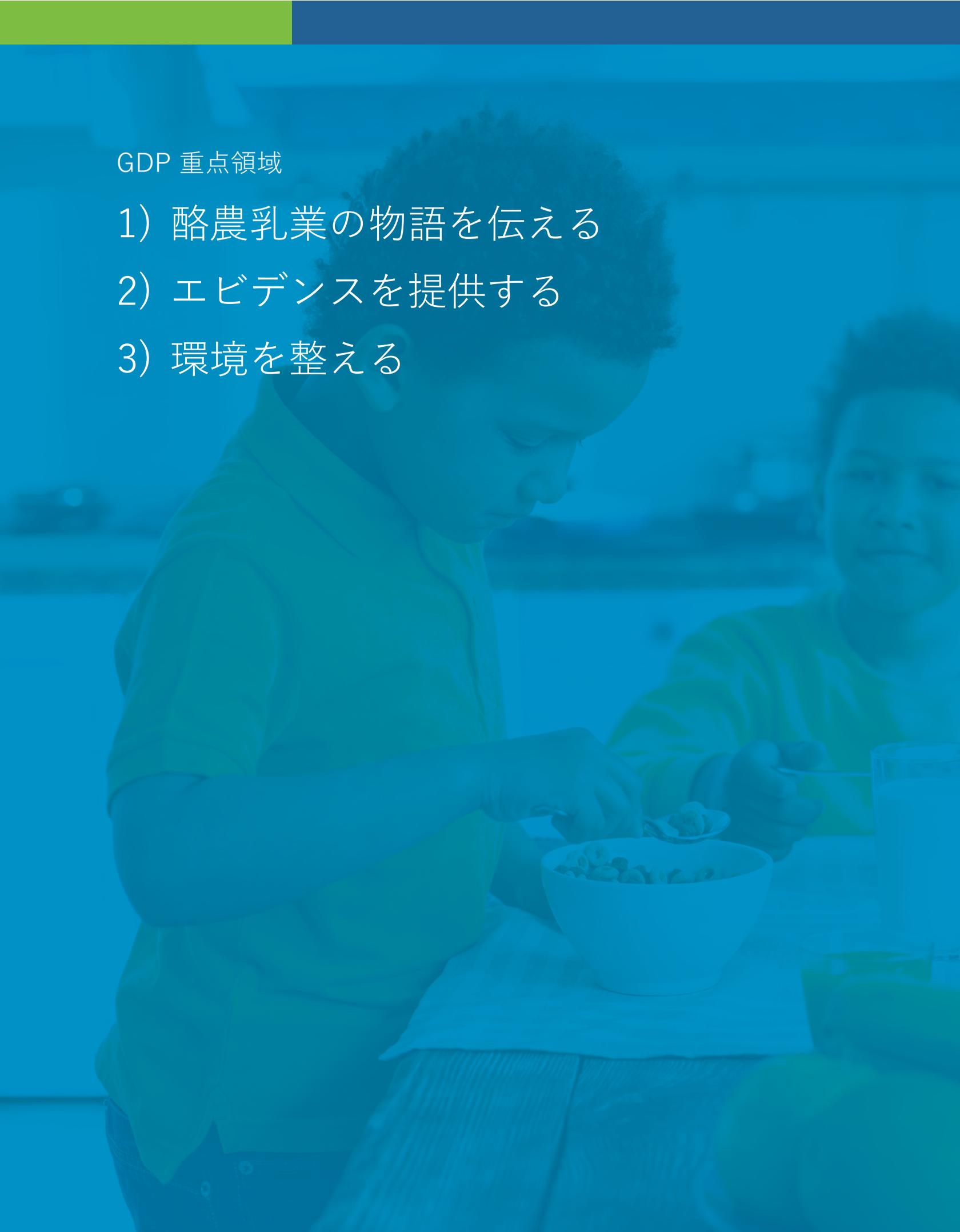
グローバル・デーリー・プラットフォーム

業績報告書 2023



GLOBAL DAIRY
PLATFORM

Jミルク 仮訳



GDP 重点領域

- 1) 酪農乳業の物語を伝える
- 2) エビデンスを提供する
- 3) 環境を整える

グローバル・デリー・プラットフォームからのご挨拶

酪農乳業界は、日々、試練を受け続けています。

環境の持続可能性に対する酪農乳業界の献身、牛乳乳製品の栄養価値の科学的根拠、世界中の酪農家に対する経済的圧迫といったことについては様々な疑問があります。

しかし、我々は、事業効率を向上させることで酪農家やコミュニティ、さらには環境に利益をもたらそうと酪農乳業界が尽力していることについて、伝えなければいけない「事実と科学的根拠に基づいた物語」があることを知っています。栄養豊富な牛乳乳製品は、世界中の何十億人もの人々の持続可能な食生活の基盤となっています。また、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」のようなプログラムは、環境フットプリントを削減しようとする酪農乳業界の本気度を示しています。

日々、進歩もし続けています。

グローバル・デリー・プラットフォーム（GDP）は、酪農乳業界を前進させるための革新的なプログラムの開発と推進に取り組んでいます。また、我々は世界中のステークホルダーと協力して、この業界の前進の物語に影響を与えようと活動しています。

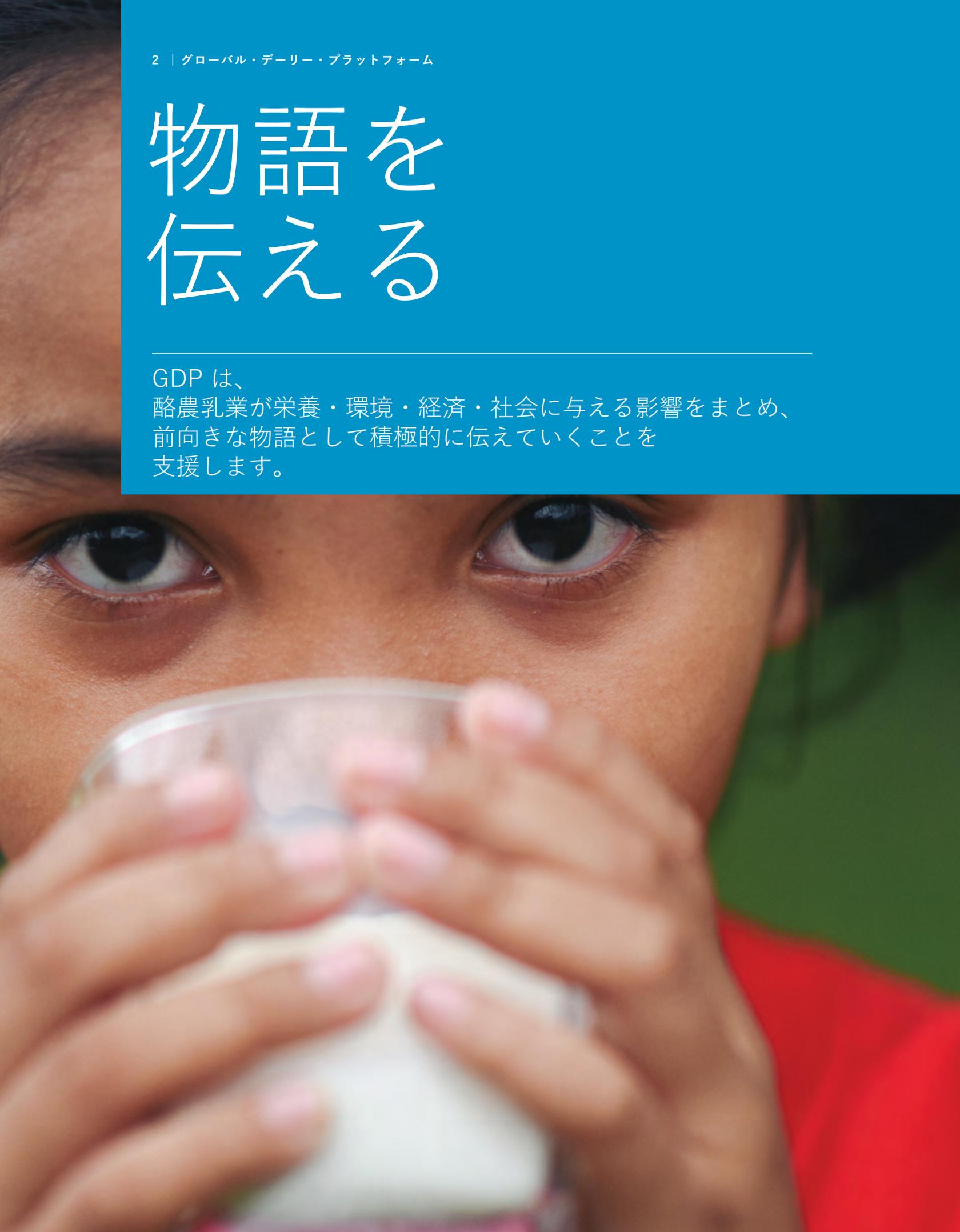
この報告書は、GDPとその会員が2023年に酪農乳業界を代表してやり遂げた活動の概要を表したものです。2024年には皆様と連携してさらに強力な活動を繰り広げることを楽しみにしています。



ドナルド・ムーア
GDP 専務理事

物語を伝える

GDP は、酪農乳業が栄養・環境・経済・社会に与える影響をまとめ、前向きな物語として積極的に伝えていくことを支援します。



「酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）」の 新ワークストリーム始動

P2DNZは、現在200以上のパートナーを擁していますが、2023年に4つの新たなワークストリームを開始しました。これらのワークストリームは、世界中でこのプログラムが進むよう促します。2023年のP2DNZの目標の一つは、新興の酪農乳業市場での活動を推進することはもちろん、先進酪農地域での成果を加速させることで、以下のワークストリームにより達成を目指します。

炭素会計 酪農乳業界が炭素排出を減らす努力をしていることを世に認識してもらう

乳の処理加工 各製造工程での排出を減らす革新的な方法を探索する

メタン 世界の専門家やパートナーと科学的アプローチを共有する

家畜栄養 酪農乳業由来の環境負荷を減らすための改良型の飼料/飼養やサプリメントの効果の研究



P2DNZは、政府、学者、企業（世界のトップ10の乳業会社を含む）から支援を受けており、2023年にウェビナーシリーズを開始しました。当シリーズでは、関連の研究プロジェクトの最新情報や、GHG排出量削減のための乳処理加工技術の進歩を取り上げています。

世界の生乳生産の40%近くを占める

200以上の組織が、P2DNZへの支持を表明しています

乳の栄養面の利点を強調するための コンテンツ・マーケティング戦略の強化

いくつかのGDPコミュニケーション活動が、栄養と持続可能性のメッセージを強く関連付けるのに役立っています。

- 科学的視点で注目される話題についての見解書シリーズ（Perspective Papers）を開始しました
- 食生活や持続可能な食料システムなどの栄養に関するトピックを扱うウェビナーを開催しました
- 世界牛乳の日のキャンペーンを主導し、前年を上回る参加を得ました

重要イベントを通じた活動

GDP は、年間を通じて、世界各地でのイベントで影響力ある様々な分野の方たちとの接点を作り、情報を伝える活動をしました。



COP28: GDPとP2DNZは、11月～12月初旬にアラブ首長国連邦で開催されたこの会議において主導的役割を果たしました。酪農乳業関連を含むサイドイベントの数は過去のCOP会議を上回る中、GDPは18回講演をし、公式のものを含む5つのサイドイベントと、9つの二者間会合を開催しました。



気候変動に対応した農業イノベーションミッション (AIM for Climate) : GDPは、5月のワシントンD.C.でのAIM4C (Agriculture Initiative Mission for Climate) サミットに酪農乳業界の代表として参加し、AIM4Cの短期集中イノベーション案件でもあるP2NDZについて議論しました。GDPはまた、畜産の地球規模の気候変動への対策の意欲をテーマにした分科会議を共同開催し、43カ国から1,200人の思想的リーダーの参加を得ました。

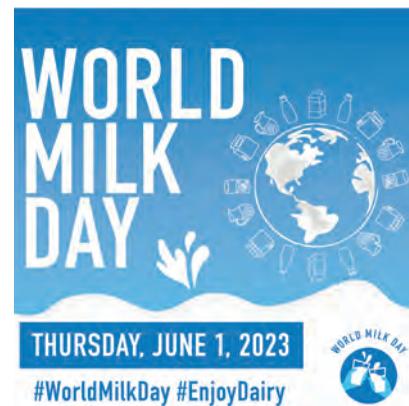


クライメート・ウィーク (Climate Week) : GDPは、9月にニューヨークで開催されたクライメート・ウィーク2023の一環として、仮想サイドイベント「P2DNZ」を開催し、その活動を加速させ、成果を得ました。講演では、世界の酪農乳業による炭素排出を減らすための実践的な方法を創出する研究の進捗や、酪農や乳業の方法の改善や新技術を採用することで先進国市場で得られた進歩などが紹介されました。さらに、P2DNZが新興経済地域で実用化され得ることについて東アフリカの官民連携によるアフリカ酪農乳業開発 (Dairy Nourishes Africa : DNA)がいかに成果を上げているかに関する専門家による議論がなされました。



ヒトの健康のための食事タンパク質に関する国際シンポジウム (International Symposium on Dietary Protein for Human Health) : GDPは、オランダのユトレヒトでの3日間にわたるシンポジウムの開催を支援し、約300人の研究者の現地参加と、それ以上のオンライン参加を得ました。複数のセッションで、6年間の多施設共同研究プロジェクト「プロテオス計画」の研究報告が行われました。このプロジェクトはGDPが主導したもので、食品のタンパク質の「質」を評価するためのより正確な方法を開発することを目的としています。

World Milk Day（世界牛乳の日）：2023年の世界牛乳の日は世界中の酪農乳業界の強力な支援により成功を収めました。GDPは酪農乳業の代表としてこの日の活動を推進し、また、世界中111カ国でのSNSキャンペーンやリアルイベントの状況を調査し、SNSの表示回数は13億を超え、2022年比で33%増加したことを確認しました。2023年のテーマは、酪農乳業がどのように環境負荷を減らし、一方で同時に栄養と持続可能な生計を提供しているかということを紹介することでした。酪農乳業が持続可能な未来を革新的に作り出す技術をいかに取り入れているかを示す酪農家の様々な動画は大きな反響を呼びました。



世界牛乳の日のSNS表示回数が13億回を超える



ナリッシュ会議 2023（NOURISH 2023）：10月にシカゴで開催されたGDPのナリッシュ会議 2023に世界中の酪農乳業界のリーダーが参加しました。この会議は、国際的な乳業会社のCEOや幹部役員、オピニオンリーダーが人々や地球の健康について議論する特別な会議です。CoBankの出資によるこのイベントでは、米国農務省の農業生産保全担当副長官のロバート・ボニー氏と、国連世界食糧計画の前事務局長で世界食糧賞受賞者のキャサリン・バーティニ氏が基調講演を行いました。



GDP 年次総会：10月にシカゴで開催されたGDPの2023年年次総会では、世界資源研究所、リデット研究所、アールフーズ社、フォンテラグループ、デーリーファーマーズ・オブ・アメリカなどの専門家による各講演が行われました。この会議の後、デーリー・サステナビリティ・フレームワーク（DSF）の年次総会と国際酪農連盟（IDF）のワールドデーリー サミットが同じシカゴで開催されました。



GDP/IMP 会議：GDP と国際牛乳普及グループ（IMP）は、世界中から酪農乳業のマーケティングとコミュニケーションの専門家を集め、酪農乳業の持続可能性の物語がどのようにすれば効果的になるかを検討する会議を開催しました。会議は5月にダブリンで開かれ、アイルランド食糧庁、マッキンゼー・アンド・カンパニー社、ダノン社、アールフーズ社、サポート社、デーリーファーマーズ・オブ・アメリカ社、フォンテラ社などの専門家による各講演が行われました。会議では、酪農乳業の環境や栄養、社会経済的利点を知ってもらうための効果的な方法をどう選択するかに焦点が当てられました。

エビデンスを 提供する

栄養、持続可能性、社会経済発展のための酪農乳業



エビデンスを提供する

栄養: 栄養豊富な牛乳乳製品の適切な摂取の奨励

プロテオス計画 (Project Proteos) の進捗

研究完了: タンパク質の「質」の重要性とその測定方法に関する6年にわたる画期的な研究が2023年に完了しました。GDPが調整して3カ国の4研究機関の研究者が参加したこのプロジェクトでは、動物由来のタンパク質が他のタンパク質よりも優れていることが示されました。プロジェクトとしては、今後、消化性不可欠（必須）アミノ酸スコア（DIAAS）と知られる「タンパク質の質の評価方法」に関する10件前後の論文発表を行い、多数のウェビナーを開催する予定です。



タンパク質シンポジウム: プロテオス計画の成果は、9月にオランダのユトレヒトで開催された「ヒトの健康のための食物タンパク質に関する国際シンポジウム」での複数のプレゼンテーションで取り上げられました。この貴重なイベントには16カ国から60人の講演者が集まり、300人以上の参加がありました。GDPは、国連食糧農業機関（FAO）、国際原子力機関（IAEA）、オランダのワージェニンゲン大学、ニュージーランドのマッセー大学の代表者とともにシンポジウム実行委員会に参加しました。

シンポジウムではプロテオス計画に参加した研究者によるいくつかの講演がありました。講演者はデータの紹介とともにタンパク質の質を測定する適切な方法としてDIAASを採用することを提案しました。2024年にはシンポジウムの講演録が科学雑誌の増刊号として発表される予定です。

**タンパク質シンポジウムには300人以上が参加し、
16か国から集まった専門家による講演がありました**

科学視点でのコンテンツ

月刊見解書（Perspective Papers）：GDPは、世界の酪農乳業に影響力を及ぼす、健康や栄養、持続可能性に関する重要課題に関する月1回の見解書を開始しました。記事としては、持続可能な食生活における動物性食品の役割、栄養政策の助言に活かせるシンプルな考え方、牛乳乳製品の健康への貢献などを取り上げました。

ウェビナー：GDPは科学視点での注目話題に関するウェビナーを3回開催しました。

- 「食事内容の持続可能フードシステムへの影響の評価におけるデルタモデル等のモデル活用の検討」 ニック・スミス博士（マッセー大学）とトム・ヒューパーツ博士（ワーゲニンゲン大学）
- 「真のコスト計算」 チェリー・ヘンドリクス教授（グリニッチ大学）
- 「持続可能な食生活における動物性食品」 タイ・ビール博士（栄養改善のためのグローバル・アライアンス（GAIN））



牛乳乳製品の科学研究

6カ国の酪農乳業組織から栄養を専門とする科学者が参加する酪農乳業研究コンソーシアム（DRC）では、戦略的な柱となる研究開発計画（持続可能な食生活、タンパク質、乳マトリクス）が検討されました。DRCは、複数の大学の研究者によって最近発表された論文「21世紀の健康で持続可能な食生活に向けて：社会文化面と経済面の熟考の重要性」に対して共同出資をしており、ユトレヒトでのタンパク質シンポジウムにも出資し、栄養と環境の持続可能性や現実的な価格と受容性などの面からの食生活の最適化に取り組むリデット研究所や「iOTAモデル」にも共同出資しています。GDPは、DRCの事務局として関わっていることを誇りに思っています。



GDPは、マッセー大学がアメリカ乳製品輸出協会（USDEC）と共同で行っている途上国での低コスト食プロジェクトに共同出資しています。

GDPは、FAOおよびUSDECと共同で「ケニアの学校給食での牛乳提供プログラムの効果と地域社会の積極度」という研究を行い、ブサラ行動経済学センターが主導するケニアでの研究にも協力しました。この研究では、プログラムを実施したコミュニティ

ティーと実施しなかったコミュニティを調査することで、プログラムの採用に影響を与える要因を探索しました。その結果、プログラムを成功させるには、やる気のある学校幹部と教師、そして安定した輸送配達網が必要であることがわかりました。

エビデンスを提供する

持続可能性: 酪農乳業は信頼でき、持続可能で、影響力があることを示す

酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）

P2DNZは、先進国の酪農乳業市場での競争前の活動に取り組むことに焦点を当てた**4つの新ワークストリームを2023年に立ち上げることを発表しました。**

4つの新しいワークストリーム:



炭素会計: このタスクチームの目標はGHG算定報告モデルが酪農乳業に適していることを確認することです。温室効果ガス排出削減目標と温室効果ガスプロトコールと連携させたこのP2DNZの作業では、進捗確認に使われるツールや方法、手順などが酪農乳業の炭素排出削減取り組みの成果を正確に定量化できるのかを検証します。このタスクチームは、酪農乳業バリューチェーンのスコープ3算定において業界が直面している課題について、クオンティス・コンサルティングによる大規模調査報告に基づく検証を2023年に開始しました。計画に基づく作業は進行中で、個々の農場でのトレーサビリティと農業におけるマスバランスアプローチの必要性に関する包括的な見解が示されています。



乳の処理加工: テトラパック社が出資・主導するこのグループは乳業工場の炭素排出の削減策や持続可能性の改善策を戦略的に検討するために設置されました。



メタン: P2DNZは、世界中の政府や国際組織、酪農乳業のステークホルダーの方針に役立つ信頼性高く正確な情報を提供できるように、世界各地の専門家と協力して、メタン排出を減らすために共通で使うことができる科学的アプローチを開発しています。



家畜栄養: トラウニュートリションとの連携によって設置されたこのワークストリームは、酪農の環境負荷を低減するのに飼養・飼料・サプリメントが果たす役割を調査することに焦点を当てています。その活動は、酪農の炭素排出を削減する革新的な解決策についての研究の支援や方向付けに役立つものです。

GDPは、新興市場でもP2DNZによって前進しました 世界の酪農乳業の炭素排出の約80%は新興市場からとなっています。そこで、P2DNZは、早期導入に合意したアフリカのタンザニア、ケニア、ルワンダ、ウガンダ、中南米のウルグアイ、コスタリカ、コロンビア、アジアのパキスタン、ベトナムの9カ国と改善に取り組むために、グローバル・メタン・プレッジおよびFAOと連携することにしました。



緑の気候基金 (GCF) は、国際農業開発基金 (IFAD)、FAOおよびGDPと連携し、ケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダを対象とする地域官民畜産業プログラムの開発を支援するため、プロジェクト準備資金350万ドルの出資を承認しました。

GCFの拠出金110万ドルはパートナーの共同出資を補完するもので、地域の酪農乳業システムを排出削減と気候変動耐性の方向に転換させる支援に必要な4億ドルの融資を達成するための共同出資体制の構築を進めることをも目的としています。

2023年を通して、パートナーやグローバル・メタン・ハブ (GMH)、USAID、ベイン・アンド・カンパニー (Bain & Company) 社などが2024年中の資金提供を得るためにGCFに提出する書類の作成に取り組みました。



ラテンアメリカ開発銀行CAFがFAOとGDPの支援を受けて主導する同様の資金提供プロジェクトが、2023年に開始されました。そのグループは最初のプロジェクト情報文書をGCFに提出しました。パキスタンでも2024年前半に作業を開始する計画が進行中です。

農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス P2DNZ では、グローバル・リサーチ・アライアンス (GRA) およびFAOと協力して、温室効果ガスと緩和策の異なる組み合わせの温暖化効果をモデル化するとともに、異なる国やシステムでの緩和策採用における障壁について調査しています。

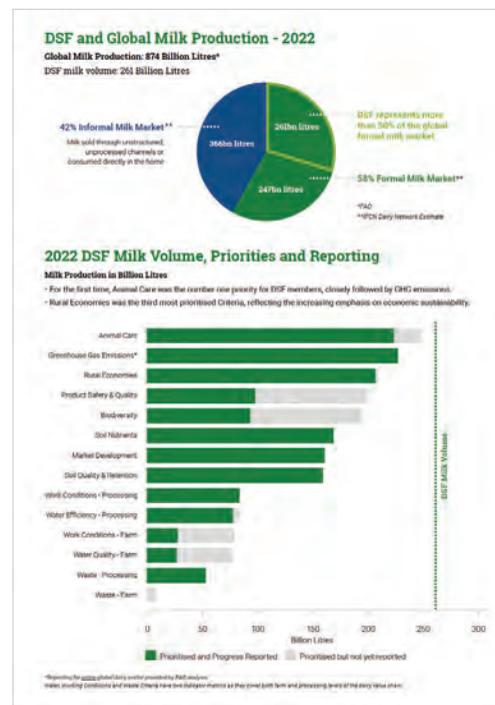
デーリー・サステナビリティ・フレームワーク

デーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF) は、世界の酪農乳業界の持続可能性の年次進捗状況をモニター・報告する組織で、10月のDSF年次総会で2022年報告書を発表しました。世界の公式な生乳取引全体の50%以上を対象とするこの報告書のハイライトは以下の通りです。

- 家畜飼養が、初めてDSFメンバーの最優先事項となりました
- GHG排出が2番目の優先事項で、農村経済が3番目でした
- DSFは、男女平等を支える酪農乳業の役割をより定量化するために、農場と乳業者のレベルの両方の雇用に関するジェンダーデータの報告を開始しました

DSFは、2023年に活動10周年を迎えたことを祝うとともに、11の持続可能性基準の世界各国での自主的なマテリアリティ評価を委任し、いずれも将来に向けて「目的に適っている」ことを確認しました。家畜飼養、GHG排出、農村経済以外の基準は、製品の安全性と品質、生物多様性、土壌養分、市場開発、土壌の品質と保持、労働条件（乳業者と農場）、水の利用可能性と水質（乳業者と農場）廃棄物（乳業者と農場）です。

年次総会では、DSFのリーダーが集り、IFAD/GDPが共同出資によるベトナム、インド、ルワンダ、ケニアでのDSFパイロット事業の結果とそこから得られた事例紹介について議論しました。これらのパイロット事業の成果は、年次総会時に開始した「DSFステージ1会員モデル」の策定に役立ちました。「ステージ1会員」制度は、酪農乳業組織のための持続可能性の旅を始めたばかりで、DSFの会員、諮問委員会とその他のステークホルダーの支援を受けて進んでいます。DSFは現在、インド全国酪農開発委員会との連携で、2024年のインドでのステージ1会員の実証研究を開始しています。



エビデンスを提供する

社会経済発展のための酪農乳業: 酪農乳業が生計を変革することを実証する

酪農乳業界の社会的役割のエビデンスを提供する

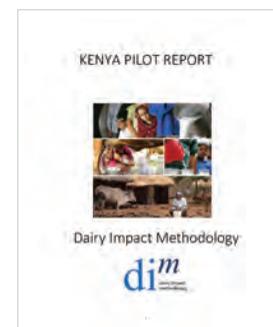
デリー・インパクト・メソドロジー (DIM) は、FAO、国際農業開発基金 (IFAD)、国際酪農比較ネットワーク (IFCN)、持続可能な畜産のためのグローバルアジェンダ (GASL) との連携で開発された手法で、酪農家の生計、雇用、消費者利益、政府収入の観点から酪農乳業の社会経済的影響を測定するのに使われています。

2023年にDIMチームは、187カ国における酪農の発展とその社会経済的影響との関係の分析に基づき、グローバルデリーインパクト報告書を作成しました。2024年に発行される予定のグローバルデリーインパクト報告書は、酪農乳業界の社会経済発展への貢献について重要な視点を提供し、各国政府や政府間機関によって過小評価されがちな酪農乳業界の成長と変革が社会にどのように利益をもたらしているかを示しています。データ収集プロセスには、酪農乳業界と社会発展との関連性を評価するための世界最大の農業界のデータベースの開発が含まれています。

デリー・インパクト・メソドロジーは、
187カ国における酪農乳業の発展の社会経済的影響
を分析するために使用されています

DIMチームは、生産システム、バリューチェーン、地域の不均一性を把握するため、DIM手法を用いた影響評価パイロット事業を5カ国(インド、ベトナム、ケニア、ルワンダ、米国)で実施しました。これらパイロット事業の報告書は、IFAD-GDPプロジェクト助成金の下で実施され、各国のステークホルダーに正式に公表されました。米国のパイロット事業はデリーマネジメントインクと共同で行われたもので、過去100年間の米国酪農乳業界の構造的変化をより詳細に分析するものです。その結果に基づく報告書は2024年に発表される予定です。

持続可能な開発目標 (SDGs) に関する酪農乳業の影響測定についての最新の報告書「酪農乳業のジェンダーの平等とエンパワーメントの向上に対する影響」が2024年に発表されます。報告書では、酪農乳業の発展がどのように女性のエンパワーメントを改善するのかに焦点が当てられます。報告書は、出版に向けて連携パートナーであるIFAD、FAO、GASLからの最終承認待ちの状況です。



アフリカ酪農乳業開発

アフリカ酪農乳業開発 (Dairy Nourishes Africa: DNA) は、GDPによって設立された官民パートナーシップで、世界の酪農乳業界と地域のステークホルダーの総力を結集し、食料システムをより強靱性がある包摂的かつ環境的に持続可能なものにすることを目指しています。GDPは、ランド・オレイク・ベンチャー37社 (包摂的な酪農乳業開発を推進) およびベイン・アンド・カンパニー社 (重要な酪農乳業企業の成長を促進し、影響力を高める) と提携し、酪農乳業に関する重要な技術や手法を提供しています。

DAIRY NOURISHES AFRICA Overview

What is DNA
Dairy Nourishes Africa (DNA) is building towards a 15-20 year public-private partnership leveraging the collective strength of the Global Dairy Platform and a wide array of industry, community, and governmental stakeholders to drive the accelerated transformation of African dairy industries

How DNA works
DNA takes a market-led, systems approach, where **farmer-allied dairy processors** are the linchpin for accelerating transformation, working to drive optimal outcomes from farms to consumers and across the operating environment

Why dairy
Dairy is an effective way to enhance the nutrition of rural and urban populations, while supporting livelihoods across the value chain - especially as a regular income source for millions of smallholder farmers

Why DNA
There is a pressing need to transform food systems to be more resilient, inclusive and environmentally sustainable
DNA will harness the power of dairy to deliver social, nutritional, economic, and environmental imperatives for sustainable growth in Africa

Where DNA operates
DNA launched in Tanzania Aug '20 with expansion into Kenya Sept '21 and plans for subsequent scaling in Uganda, Ethiopia and Rwanda

Who is supporting DNA
DNA is founded by the Global Dairy Platform, Land O'Lakes Venture37 and Bain & Company

GLOBAL DAIRY PLATFORM
LAND O'LAKES VENTURE37 | BAIN & COMPANY

DNAの「タンザニア酪農乳業における包摂的乳業者－生産者パートナーシップ

(TI3P)」プログラムは、同国の小規模酪農生産を促進し続けています。ベイン社とベンチャー37社はともに、DNAのGCF申請の支援での試行錯誤から学んだことを活かして東アフリカにおけるP2DNZイニシアチブの推進に従事しています。このプログラムは、生産者が正式な集乳、処理加工、販売システムを利用できるよう支援するとともに、農場での生産性を高めています。生産者はまた、牛のワクチン、飼料、給餌、遺伝的特徴に関する重要な支援を得ています。

「タンザニアにおける酪農乳業を通じたDNAによる包摂的生計構築」は、スウェーデン国際開発協力庁 (SIDA) から資金提供を受けています。この取り組みは、TI3Pにあまり関与していない酪農乳業バリューチェーンのステークホルダー (特に女性酪農家) にDNAの影響力を拡大することでTI3Pとも連携しており、気候変動に対応した酪農乳業経営に転換する支援をしています。

環境を 整える

幅広い連携と協力体制をとって活動することで、
酪農乳業の物語を増強する



FAO への関与

GDP は、FAOとの覚書 (MOU) に基づく4つのワークストリーム (食料安全保障と栄養、生計と経済成長、家畜飼養と福祉、気候と天然資源の利用) の活動を進展させています。

例

- ヒトの健康のための食事タンパク質に関する国際シエポジウム開催のための連携
- 酪農乳業の社会経済的影響を調べるためのデーリー・インパクト・メソドロジー (DIM) のFAOや他の組織との連携による推進
- 9月にローマで初めて開催された、持続可能な畜産への転換に関するFAO世界会議への参加 ドナルド・ムーア氏が「全体セッション4:より良い環境」において基調講演者として意見を述べ、パネリストや参加者の議論のきっかけを作りました。



- 東アフリカと中南米におけるP2DNZワークストリームの立ち上げにおいてFAOと緊密に協力をしました
FAOは、ラテンアメリカ開発銀行 CAF を、同地域についてのGCFへの申請のための認定機関として特定し、採用することに貢献しました。

酪農乳業大使

GDPは、酪農乳業大使プログラムの様々なイベントに従事する農家、協同組合、乳業者との関係を維持しています。このプログラムは、現実世界の経験を質の高い会話へと発展させる優れた方法であることが証明されています。GDPはプログラムを通して多くの国の大使との関係をさらに強化しました。GDPは、FAO民間セクター諮問委員会、GASLのため助言グループ、気候と大気浄化の国際パートナーシップの農業リーダーシップ協議会のような多くのリーダー的グループに貢献し続けています。酪農乳業大使は、AIM4C会議、世界食料フォーラム、COP28、CFSジェンダー交渉、FAO会議、IAFN (国際農業食品ネットワーク) 主催の Partnering 4 Betters イベントなどの、2023年の主要な会議に出席しました。GDPの酪農乳業大使は、国連に精通し、グローバルな問題に関する知識を高められるように訓練を受けています。



COP28

P2DNZは、アラブ首長国連邦で開催されたCOP28での普及活動において重要な役割を果たしました。例えば、GDPとパートナーがこの取り組みにおいて多くの地域で成果を上げ始めており、他の地域でも行動を加速させていることについて参加者に紹介しました。

講演、サイドイベント、2者間会合では、気候に配慮した生乳生産を加速できることが強調され、また、炭素排出を削減し、食の安全と世界の10億人の生計を確保するための持続可能な酪農乳業・畜産管理の具体的な解決策としてP2DNZが紹介されました。

GDPはまた、主要なパートナーとともに様々な2者間会合を開催し、酪農乳業界ネットゼロの未来への移行を前進させる取り組みにおいて、より良い連携を促進するための効果的な解決策や関係構築を模索しました。次のような例がありました。

- ・ **サイドイベント「世界の畜産の持続可能性向上による農家主導の適応・緩和策」**では、3人の酪農協同組合の幹部が、農家がどのように気候変動対策を主導し得るかについての考えを述べ合いました。その生産的な議論には、酪農業が直面する障壁や、世界的な実質排出ゼロを達成するために必要な道筋などが含まれていました。

- ・ **2つ目のパネル議論では、ハンナ・ソンダーガード氏（GDP理事会副議長、アーラ社の上級副社長で農業・持続可能性部署の責任者）が、P2DNZへの関与と、気候変動対策を加速させるために行っていることについて語りました。**



COP28へのGDPの関与により、環境分野での協力関係と信頼性の構築の仕方に関する**農業界の最良の具体例としてP2DNZが多くの人に認識されている理由をさらに実例を挙げて説明しました。**

グローバル・デーリー・プラットフォーム
10255 W. Higgins Road, Suite 820
Rosemont, Illinois 60018-5616
United States
Phone: +1 847 627 3388
Info@GlobalDairyPlatform.com
www.GlobalDairyPlatform.com

グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）は、世界の酪農乳業界を代表する非営利の業界団体です。GDPの会員は、95以上の主要な企業、団体、学術機関、その他の提携者で構成されており、150カ国以上で事業を展開し、合計で世界の全生乳の33%を生産しています。

GDPは、2023年の酪農乳業界の発展に役割を果たしていただいた全ての会員の皆様に感謝いたします。



**GLOBAL DAIRY
PLATFORM**